

■座談会「土木構造物の造形論」中村良夫氏をかこんで
 ■第1回土木系学生全国大学準備委員会の活動経過
 報告

座談会「土木構造物の造形論」

中村良夫氏をかこんで

当土木系学生会は会設立の趣旨でうたっているように個々の大学のわくを越えて土木学生が互いに意見の交流を計るものであるが、今まで200名近い参加者によるいくつかの講演会が催されてきたが、6月号の本欄にもあったように参加者を小人数にしぼって座談会、もしくはシンポジウム形式でお互いが話しあうフィード・バックを可能にしたタイプの集いを数多く企画すべきであるという考えから、4月号の土木デザイン特集が学生の一部で話題となっていたので「土木構造物の造形論」をのせられた中村良夫氏にご出席ねがって、去る5月28日土木学会会議室で集会をもった。

参加者はあらかじめ中村氏の論文を各自整理し、問題点をつかんでいたもので、中村氏がお若いということもあってか、卒業されて4~5年たった先輩に話しかけるような和やかさで活発に意見が出され、土木デザインについて各自考えを深め問題意識を高めるという点で意義があったと思う。

今後ともこういうタイプの会合を機動的に開くのは、意義あると思われるので、私達はすすんで企画し自から集会を開くなり幹事会に持ちこむなりしてやってゆこうではありませんか。なお、東京以外の地域でも困難はあろうが小規模であれば比較的容易であるから企画されることをおすすめする。その際のレポートを当会東京支部あてご送付下さればそちらの編集方針にしたがって掲載するのがよいと思う。

以下、会合の席上、話題になった点を整理する。

○土木技術者は設計に際し、従来、構造的機能については意を払っていたが、今後はその構造物が「市民に与える影響」をもっと考慮し、それを新たに一つの機能としてとらえ、計量化することができないであろうか。

○それをセンスとか、審美性とかいうことばにおきかえて変に装飾に走るのはまちがっている。

○Tardera 橋(4月号 p.16)が美しくないのを「支承点でせん断破壊をおこすような不安を抱かせるから」という理由にするのはまちがっており技術者のことばではない。

○土木技師のエッフェルが設計したエッフェル塔が当時の鉄とガラスとコンクリートの時代の象徴としてヨーロッパに大きな影響を与えたことを考えるとき、われわれは現代の文明的状況を土木技術を通してつかむ努力をもっとして、土木構造物をつくることで積極的に市民に働きかけるといった気概を持とう。

○大学に「土木技術史」の講座があってもよい。

○土木デザインも結構だが、土木工学の基礎をその前に十分やっておかなくてはダメだ。

最後に中村氏が、「技術史観」、「文明史観」を持つことを提案され、われわれの大先輩達がいつどんな構造物をいかにしてつくってきたか、土木技術史を読むことをすすめられた。なおふたつの大学で有志が「日本の土木技術——100年の発展のあゆみ——」の読書会を計画、実施中だった。また、ルイス・マムフォードやギニーディオンの著作を紹介して下さった。

(参加者 東大(4)、東海大(1)、武工大(4)、早大(3)、法大(2)、関東学院大(1)、中大(3))

(文責 吉田忠功)

第1回土木系学生全国大学準備委員会の活動経過報告

第1回土木系学生会全国大会の参加者を6月号に掲載しましたような要項で募りましたところ、6月9日現在大学院修士課程の方もふくめて約160名の参加希望者がありました。

各大学別に列記しますと

北海道大学	9名
三重大学	5名
岩手大学	1名
京都大学	19名
日本大学(第2学部)	8名

大阪大学	7名
日本大学(農学部)	4名
大阪工業大学	9名
新潟大学	1名
神戸大学	16名
名古屋大学	8名
近畿大学	9名
名古屋工業大学	6名
九州大学	23名
岐阜大学	1名
九州工業大学	15名
宮崎大学	12名
鹿児島大学	2名

その他関東地区からは 50 名程度参加の予定です。

以上のように当方の予想を上まわる方が参加を希望して頂きましたことは主催者側としまして誠に喜ばしいことと思います。

しかしながら当方で準備致しました宿舎の定員が 120 名足らずのために参加希望者全員に宿泊の準備をするこ

とができません。参加者の知人宅等の民泊をも考えましたが、今大会が全国の土木系学生が合宿を通して親睦、交流を計るという趣旨をも考えましたところ、あまり好ましくないと思われますので、誠に身勝手ではありますが人数を制限させていただきます。それで今回は学部学生のみで開催させて頂きたく大学院の方はご遠慮願います。また一校で多数参加希望者のある大学は多少人数を制限して頂く由ご連絡致しますのでよろしくお願い致します。

当方の不手際で皆様のご希望にそえないことを深くお詫び致します。

なお新たに討論会講師として民間会社の第一線に立って活躍しておられる方々にも出席して頂くことになりましたことをお知らせ致します。

各校の今大会への深い理解と積極的参加に感謝致しますとともに、主催者側と致しましても少しでも皆様のご期待にそえるよう努力致しますので今後ともよろしくご協力をお願い致します。

第 1 回土木系学生会全国大会準備委員会

我国初のガス圧接技術
の専門書ついに刊行!

好評発売中

鉄筋のガス圧接

鉄筋のガス圧接編集委員会編

A5判 300頁 図版写真多数・製本 クロス上製函入・定価 900円 送料共

発刊のことば

日本圧接協会 会長 仲 威 雄

鉄筋コンクリート構造の合理的な設計はガス圧接法を取り入れてはじめて可能であるし、合目的な施工は完全なガス圧接によって達成される。当協会が設立以来、土木界および建築界の各方面より強く要望されていた本法に対するテキストがこの度、委員各位の努力によって、漸く発刊されるに至った。この編纂の衝にあられた副会長竹山謙三郎博士技術委員会委員長岡本剛博士およびその他の委員に心から感謝の意を表すると共に、広くこのテキストが活用されることを期待するものである。

主要目次

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 序 論 | 4.2 表面張力説 |
| 1.1 ガス圧接法の沿革 | 4.3 再結晶説 |
| 1.2 ガス圧接法の概要 | 4.4 内部酸化説 |
| 1.3 ガス圧接の利点と欠点 | 4.5 石井博士の説 |
| 2 酸素およびアセチレン | 5 圧接部の機械的性質 |
| 2.1 酸素アセチレン炎 | 5.1 鉄筋各部の温度上昇 |
| 2.2 酸 素 | 5.2 圧接部の機械的性質 |
| 2.3 アセチレンガス | 6 施 工 |
| 3 器 具 | 6.1 鉄 筋 |
| 3.1 調 整 器 | 6.2 圧接器具および材料 |
| 3.2 導 管 | 6.3 圧縮作業前の計画と諸注意 |
| 3.3 吹 管 | 6.4 圧 接 作 業 |
| 3.4 ガス圧接器 | 6.5 不良ガス圧接の例 |
| 3.5 保護具と補助器具 | 6.6 検 査 |
| 4 接 合 機 構 | 6.7 圧接作業能率とその費用 |
| 4.1 拡 散 説 | 6.8 タイロッドの圧接 |

発行所 社団法人 日本圧接協会

東京都豊島区池袋 2-906 大谷ビル
電 話 (971) 7 4 8 4 番